

政務活動費 視察・研修会等 報告書

・日 時	平成30年 7月13日（金） 午前9時30分～午前11時30分
・視察都市	長野県上田市（人口158,171人/平成30年3月末現在）
・会 場	上田市役所及びサントミューゼ
・参 加 者	桐生市議会 公明クラブ 周東照二、山之内肇
・項 目	・健康づくりチャレンジポイント制度について ・サントミューゼについて

◎概 要

- ・健康づくりチャレンジポイント制度について

（１）説明要旨

＜施策に取り組むきっかけ＞

- ・上田市の健康課題は糖尿病・血糖値が高い人が増えているということ。
- ・メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の割合も県平均に比べて多い。
- ・少子高齢化の進行

こうした状況を背景に、医療費負担が右肩上がりが続けている。

さらに高齢化の進展による介護給付費などの増大も（確実に）想定される中、来る超高齢化社会を見据えた健康づくり事業の必要性を強く認識。

重視したのは、「元気なうちに体づくりをしていく」ということ。

＜健幸都市（スマートウェルネスシティ）＞

・上田市では、平成27年度において、7年後に超高齢化社会を迎えると想定し、その将来像として、一人一人がライフスタイルにあった幸福を感じ、いきいきと健康に暮らせるまち＝健康都市（スマートウェルネスシティ）の実現に向けて取り組みをスタート。

- ・具体的施策（6本の柱）

- ① 子どもの健康づくり支援の体制強化
- ② 若い世代からの健康づくり支援の推進
- ③ 楽しみながら続ける健康づくり支援の構築
- ④ ウォーキング等による身近な地域での健康づくり支援の構築
- ⑤ 科学的根拠に基づいた健康づくり
- ⑥ 運動習慣と地域コミュニティの活性化

＜健康づくりチャレンジポイント制度＞

本制度は、直接的には上述の③の具体的事業として位置づけられている。

（事業開始：平成 27 年 6 月）内容としては、健康づくり事業等への参加者にポイントを付与し、公共施設等の無料利用又は学校、保育園等へのポイント相当額のスポーツ関連品を配布する事業を実施するというもの。

具体的な取組み①（ポイント付与の条件）

- ・市で主催する各種健(検)診の受診
- ・市で主催する健康づくりに関する講座やウォーキングなどのイベントへの参加。
- ・歩数を距離に換算して、仮想（バーチャル）に地図上を旅する「バーチャルの旅」というウォーキング促進の取組への参加と完歩後の市主催の体組成測定会への参加。

具体的取組み②（ポイント付与の条件）

- ・自分のために使う
温泉施設・民間スポーツ施設・体育施設・総合型地域スポーツクラブ
農産物直売所・健康づくり支援団体・バス会社、協力の元、ポイントを活用できる。
- ・社会貢献に使う
貯めたポイントを市に提供していただき、ポイント数に応じた金額のスポーツ用品を市内の小・中学校や保育園などに配布することができる。

（２）主な質疑応答

Q. 健康づくりチャレンジポイント制度の年間事業予算について

A. 約 270 万円

Q. 民間施設を含め、ポイント利用には多様なメニューがあるが、どのように拡がりをつくっていったか？

A. 市としての「健幸」づくりの理念、そして、それを具現化させるための取組を丁寧に説明する中で、協力を申請している。

（３）参考となる点及び課題

- ・上田市では「健幸都市（スマートウェルネスシティ）」という方向性を明確にした上で、健康・幸せづくりに関する各施策が体系的に構築されている。今回学ばせて頂いた「健康づくりチャレンジポイント制度」も、そうした施

策の一環として明確に位置付けられており、市民にとっての分かりやすさ、取り組みやすさという点では非常に参考になるものであった。

- ・インセンティブ施策は、「やってみたい」と思っただけのようなメニューの提供等、様々な工夫が必要であるが、上田市の場合は、社会貢献というメニューを用意することで、一般的なポイント制度に関心を寄せる以外の層にも働きかけができ、参加者の拡がりを作り出すことができているのではないか？

◎概 要

- ・サントミュージゼについて

（１）説明要旨

「サントミュージゼ」は上田駅近くに位置し、平成 26 年 10 月に新設された多目的ホールの上田交流文化芸術センター及び、隣接する上田市立美術館・芝生広場の総称として、市民公募によって名付けられた。

「サント」は、かつて上田が日本の養蚕の中心地だったことを表す「蚕都」が起源となっているとのこと。

＜建設事業の概要＞

- ・ J T 開発地の一部に建設した交流・文化施設
- ・ 大、小ホール、美術館、交流施設、緑地、広場など様々な機能を併せ持ち、文化振興のみならず、地域の魅力と活力を生み出すシンボルとして位置づけられており、平成 21 年 12 月策定の整備計画に基づき整備。
- ・ 総事業費：135 億円
- ・ 財源：国交付金 4 億円 合併特例債 111 億円 一般財源 10 億円

＜運営等＞

- ・ 運営：市の直営方式

職員の業務を補助する臨時職員を配置するほか、市民協働の取組おして 70 名余りの市民サポーターが施設の運営を支援。さらに、公演の会場準備、誘導、座席案内などについては、25 名のレセプションистを募集・配置して、来場者のための快適な鑑賞環境の確保を図っている。

- ・ 稼働率は約 75%（同規模視察における一般的な稼働率は 65%とのことなので、高い水準を維持している）

（２）参考となる点及び課題

- ・本事業においては、施設整備の検討、整備計画の策定、運営管理の検討等において、専門家・学術経験者・議会、そして一般市民の参画による、研究会、特別委員会、検討委員会、専門委員会などを随時設置して、議論を重ねてきたとのことであり、非常に丁寧な遂行の経過が窺い知れた。
- ・とにかくハードの整備に目が行きがちであるが、本施設では、文化・芸術の拠点発信地としての使命・誇りを持ちながら、多様な企画、模様しによって、地域住民や子どもたちが「一流のパフォーマンス・本物に触れる」機会が提供されており、交流・文化施設、そして「劇場」の持つ大切な使命を果たしていると感じられた。
- ・直営方式での運営とのことであったが、今後のランニングコストなどを考えると、経済活動との整合性を図りながら、公民連携の視点について、更なる研究が必要であるように感じられた。

◎成果による当局への提言または要望等

＜健康づくりチャレンジポイント制度＞

本市においては、「元気織りなす桐生21(第2次)」において、一体的な計画を定め、生活習慣病予防に重点を置いた取り組みを総合的に推進しているが、健康づくりに対する無関心層への働きかけという大きな課題も抱えている。そうした中、これまでも当会派としても、そうした層への働きかけを含めた「健幸（健やか・幸せ）」づくりを推進する取り組みとして、健幸ポイント制度の創設を提案してきているが、上田市の取り組みは、その先進事例として大変参考になるものであった。

＜サントミューゼ＞

本市においては、今後、公共施設等総合管理計画に基づき、様々な施設の存続や運営等について、削減目標を基に具体的な検討が始まっていくことになるが、文化・芸術施設においては、より定性的な尺度を重視し、文化芸術振興を更に促進できるような方向性を望みたい。

また、既存の施設・事業においても、いわゆる「場」の提供に止まらず、文化芸術の発信地としての使命を担うべく、より充実したコンテンツの開発・掛け合わせなどを推進するため、公民連携の更なる強化なども検討頂きたい。